

令和4年度 高校生川柳 受賞作品 講評

| | | |
|-----|---|---------------------------|
| 大賞 | 【句】 朝勉強 冷えた机に 囲まれて | 作) 上山 剛史 様 (星城高等学校) |
| | 【講評】 いよいよ大切な試験を前に、朝一番に一人勉強を始める決意と引き締まった空気感がよく表現されています。「朝勉強」と「冷えた机」からは勉強を乗り越えることの心の内側の様子が感じられ、作者の心の中を上手く表現しています。 | |
| 傑作賞 | 【句】 我らの音 響け届けと 舞台から | 作) 木村 優真 様 (愛知工業大学名電高等学校) |
| | 【講評】 決して上手くはないけれど、必死に強引に演奏している高校生らしい荒削りな姿が見えました。運動部の皆さんが勝利を目指して、力一杯、試合に臨んでいるような、一曲に込められたそんな熱意も感じました。 | |
| 傑作賞 | 【句】 勉強を しない言い訳 栗を剥く | 作) 圓福 まこ 様 (啓明学館高等学校) |
| | 【講評】 ダイニングテーブルで、勉強しなさいと言われながら栗を剥いている、とぼけた雰囲気が良い。 | |
| 傑作賞 | 【句】 バリバリと つい食べ過ぎて ニキビフェス | 作) 中井 美咲輝 様 (啓明学館高等学校) |
| | 【講評】 この句は川柳ならではの面白さが軽いタッチで表現できていると思います。例えば、「ニキビフェス」という言葉を新たに創ってしまうところなど、高校生ならではの感性や、大人には欠けがちな「軽み」を感じさせます。また、単に食べ過ぎるのではなく「バリバリと」という擬音語を用いることで、多くの内容の表現に成功しています。食べているのがごはんではなくお菓子（しかもスナック菓子ではなくお煎餅の類）であろうことや、食べ過ぎを気にせず勢いよく食べていることです。それに続く「つい」という語も、食べ過ぎを気にしていないこと自体に気づいていないことが二文字で表せています。全体として、言葉を操る能力の高さを感じます。 | |
| 傑作賞 | 【句】 読書中 ごはんよ以外 聞こえない | 作) 三上 沙和 様 (紀南高等学校) |
| | 【講評】 お母さんの声は聞こえないのか、聞きたくないのか…。ただ一つ心が動く「ごはんよ」。中高生の日常をうまくまとめています。 | |
| 傑作賞 | 【句】 遅刻して 空いた車内で 開く本 | 作) 上地 宗太 様 (紀南高等学校) |
| | 【講評】 いつもと違うガラんと空いた電車の中で、小説を開く、どこか諦めとも安堵ともつかない平穏な気持ちが伝わります。昼前の暖かい日差しが差し込む中でどんな本を読んでいるのか。こっそり紙面をのぞき込みたい気持ちになりました。 | |

| | | |
|-----|--|-----------------------|
| 傑作賞 | 【句】 白き点 カキンと昇る 青空に | 作) 大羽 琉生 様 (東濃実業高等学校) |
| | 【講評】 練習中のできごとであろうか。ボールを捉えて大きく打った音が鳴り響く。青く広がる大空に高く上がる白いボール、そのボールを目で追う人々の姿。試合であれば観衆の歓声が聞こえるようだ。そのような光景がシンプルに鮮やかに描かれた作品。 | |
| 傑作賞 | 【句】 昼すぎて ふさぐ瞼と 日の光 | 作) 杉浦 彩子 様 (豊明高等学校) |
| | 【講評】 昼食後の授業中に、ポカポカと暖かな陽ざしを受けて、つい瞼が下りてしまうごく日常的な光景を巧みな言葉づかいで描写している。つい、微笑んでしまう。アイデアと表現力を評価した。 | |
| 傑作賞 | 【句】 おかずをね 交換できない 昼休み | 作) 藤木 僚大 様 (豊明高等学校) |
| | 【講評】” コロナ” 前の自由な日常が戻らないままに三年目が過ぎようとしている。ランチタイムには友達とおかずを交換して楽しく過ごしたいができない。そういった光景を閉塞感を感じさせずに詠んでいるところが素晴らしい。また、友達のおかずがおいしそうできっと食べたいのだろうと思わせて微笑ましい。 | |
| 傑作賞 | 【句】 キリキリと つるねが響く 弓道場 | 作) 藤木 僚大 様 (豊明高等学校) |
| | 【講評】 授業後の弓道場か、公式戦の会場か、静寂の中で高校生が集中して的を狙っている様子がすぐに目に浮かんだ。文武両道を目指して、部活動にも一生懸命取り組む高校生へのエールの一票である。 | |
| 傑作賞 | 【句】 立ち止まり ネクタイ締めて 歩き出す | 作) 干野 未夢 様 (豊明高等学校) |
| | 【講評】 前向きな気持ちと強い決意が伝わる心強い句です。どこへ向かうのか、目の前にはどのような道が広がっているのか、歩き出した先に広がる明るい未来が想起されます。 | |